

【連載企画①】

対話型学習サービス「教科書 AI ワカル」を活用！ ～滋賀県守山市が生成 AI を使った英語の公開授業を開催～

#連載 #教科書 AI ワカル #NEW HORIZON #公開授業 #守山市



2025 年 11 月 7 日、滋賀県守山市教育委員会は、東京書籍の令和 7 年度版中学校教科書『NEW HORIZON』に連動した対話型 AI 学習サービス「教科書 AI ワカル」を活用した公開授業を行いました。これは文部科学省が実施する令和 6 年度「小・中・高等学校を通じた英語教育強化事業（AI 活用による英語教育強化事業）」の採択事業の一環で、生徒の主体性を伸ばした学びの実現や、先生方の指導支援、授業の効率的な運用などを目的に実施されました。いま何かと耳にする「生成 AI」が、実際の英語の授業で使われる未来とはどんなものなのでしょう？ 英語教育の「最先端」をのぞいてきました。

驚きの声が上がった発表の原因とは？

「おお～」「すごい！」

守山市立守山南中学校で行われた公開授業の冒頭で、中学3年生の生徒がグループでのディベート結果を発表すると、守山市長を含めて視察に来ていた市議会議員から驚きの声と拍手があがりました。

We went on a school trip to Okinawa in Japan. There were many kind people, and it was fun.

今回の授業は『NEW HORIZON』3年の「Let's Hava a Mini Debate」。「修学旅行先として日本と海外のどちらがいいか」というテーマで、「日本派」と「海外派」に分かれて、その良さや反論を話し合い、英語で発表する単元です。上記の発表をした生徒は「発表に実際の体験を加えてみたら」というALTの先生からのアドバイスを受けて、沖縄に行った経験を発表に盛り込んでいました。

マスメディアも含めた多くの関係者は、さまざまな視点から英語でスムーズに自分の意見を言う生徒たちの姿を、最後まで頼もしそうに見ていました。



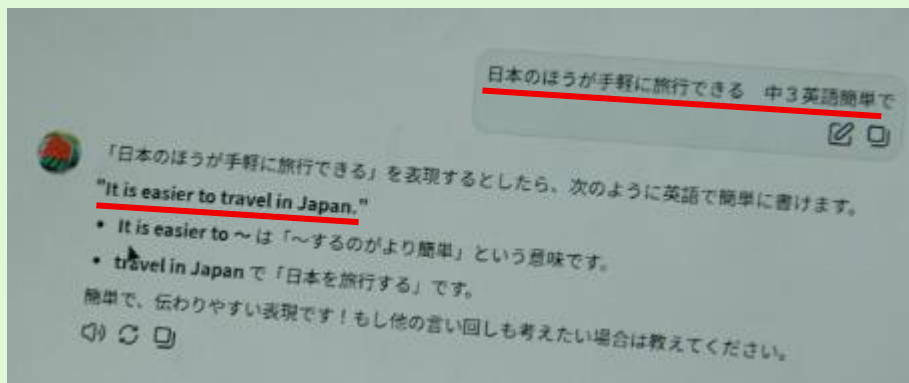
「教科書 AI ワカル」とは？

実はその発表をサポートしていたのは「生成 AI」。同校では、東京書籍の対話型 AI 学習サービス「教科書 AI ワカル」を 2025 年 6 月から英語授業に取り入れています。これは、東京書籍が参画する文部科学省令和 6 年度「小・中・高等学校を通じた英語教育強化事業（AI 活用による英語教育強化事業）」の採択事業の一環であり、同校はその実証校として AI 活用の効果や指導法の検証に取り組んでいます。

教科書 AI ワカルの最大の特徴は、実際に学校で使用されている『NEW HORIZON』に連動していること。そのため、中学校の学習者の一人ひとりの理解度や学習ペースに合わせた個別最適な学びのサポートを実現できるのです。

大きく分けて「AI が教科書学習をリードする」モードと、「AI と自由に対話する」モードがありますが、授業をリードするのはやはり“現場の”先生。そのため公開授業では、授業を担当した濱井千恵先生のプロンプト（AI に入力する指示）に「中学校レベルのやさしい英語表現で、という表現を加える」という指示のもと、英語表現を AI と対話しながら教えてもらう生徒が多くみられました。

実はこの「中学校レベルのやさしい英語表現」というのが、授業を行う際にとっても重要な要素。通常の翻訳ソフトでは、中学校のレベルを超えた難しい表現などが表示され、その表現を理解しないまま生徒が発話するケースがよく見られます。しかし、この教科書 AI ワカルは、教科書と連動した AI に指示（プロンプト）を加えることで、子どもたちの理解レベルに応じた表現に調整をすることができるのです。



「中3英語簡単で」というプロンプトを記載。生徒の指示に合わせて調整された英文が表示されます。

知識・技能の理解に役立つ

濱井先生によると、もう一つのメリットは個別最適な学習のサポートに適していること。「多くの生徒がいる中で、授業中に生徒全員を教師が同時にサポートすることは不可能です。その点、教科書 AI ワカルは『知識・技能』の理解の面でとても役立ちますね」とのこと。実際の授業は、濱井先生や ALT の先生の机間指導も加わり、生徒の発表内容が深まっている印象を受けました。

さて、いよいよ最後には ALT の先生が「日本派」と「海外派」のどちらの意見に説得されたか、勝敗を発表です！ ホワイトボードに埋め尽くされた生徒の発言内容から、ALT の先生が選んだのは——「海外派」でした。そして「海外で困難な体験をすることの大切さ」について優しく語りかけていました。



選んだ理由について説明する ALT のペリー先生。

生成 AI を「あえて使わない」

一方で、「生成 AI をあえて使わない」というシーンにも多く出会いました。濱井先生は基本的にはグループで発表の準備のときだけに使用し、それ以外の時間はタブレット端末を閉じるように指示。とくに最後の「自分の本当の考えを英語で紙に書く」活動の際には強く指示していました。その理由をきくと、「それは今日のゴールであり、授業で使った表現を生かして“自力で”どこまでできるようになるのが大切な活動です。だからそのようなシーンでは生成 AI をあえて使わないことが大切だと考えました」。なるほど、生成 AI はとても便利で生徒の学習のサポートになるものの、その使用シーンをきちんと区別する必要があるのですね！

家庭学習にも活用できる！

同校では教科書 AI ワカルを家庭学習でも活用しています。授業後にインタビューをした生徒の一人は、「各単元の重要なポイントを教えてもらった上で、それに関するテスト問題を作ってもらいました」と話してくれました。AI が教科書に沿った学習の進め方を提示したり、重要なポイントを解説したりしてくれるので、家庭学習にも適しています。「方言」や「性格」なども個別にカスタマイズできるので、楽しく学習できるのも大きなメリット。ある先生からは、AI を使った学習は本質的に楽しいものなので、「一文も話せなかったのに、教科書 AI ワカルを活用したら、一文話せるようになった生徒もいるんですよ」という、うれしい例をうかがうこともできました。



AI で英語の勉強は楽しくなる！

今回の公開授業では、その注目度の高さとともに、生徒が楽しみながら、生成 AI を使って英語の発表を行っていることが印象的でした。英語教育を大きく変えるかもしれない生成 AI の活用に積極的に取り組んでいる守山市。その英語教育のこれからの取り組みに目が離せそうにありません！